

社会との協調

ステークホルダーのご意見



報告書を読むと環境活動をしていることが分かるけど、読んでない人には分からないと思う。CMの中で、少しでもいいからこういう取り組みをしているということを流すといいと思う。(お客さま)

環境コミュニケーションの推進や地域と一体となった活動の展開・支援、及び国際的な活動の展開など、環境活動を通して社会との協調を図っています。

コミュニケーション

環境情報を積極的に公開するとともに、ご意見・ご要望をお伺いする双方向コミュニケーションを推進しています。

環境アクションレポート

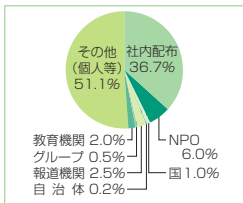
1996年度から、環境活動への取り組み状況を環境アクションレポートとしてとりまとめ公表しており、2003年度からは、事業所周辺地域の皆さまとのコミュニケーションを目的としたサイトレポートも発行しています。

■ 発行部数 単位：冊

	2006年度	2007年度
本レポート	9,700	8,000
お客さま向け小冊子	-	24,000
英語版	600	-
サイトレポート	1,000 (日立人吉電力所)	1,500 (長崎支店・人吉電力所)

※1：発行予定部数。
※2：CSR報告書英語版発行に伴い廃止。

2006レポート配布先割合



環境・エネルギー講座、見学会

環境・エネルギー問題等へのご理解を深めていただくために、環境・エネルギー教育に関する出前講座や当社施設の見学会等を実施しています。

2006年度は、教育機関や自治体等の要請に基づく、小中学校等の授業や講演会などへの講師の派遣を含め、環境・エネルギーに関する出前講座や講演会を254回実施し、約23,000人の皆さまにお話をさせていただきました。

また、当社展示施設の一つである九州エネルギー館には、約28万人のお客さまにご来館いただきました。



福岡市「わくわくエネルギー探検」でのエネルギー講座

大学生の皆さまとの意見交換

福岡教育大学環境情報教育課程の学生の皆さま4名を企業体験研修生として受け入れ、研修を通じて、九州として特色のある環境活動の提言など貴重なご意見をいただきました。

また、関西大学商学部中嶋ゼミの皆さまから当社環境アクションレポートと他社レポートの比較を中心とした研究成果を発表いただくとともに、当社の取り組みについても意見交換を行いました。

エコ・マザー活動

ご家庭における環境教育の担い手であるお母さま方をはじめとしたご家族の方々と環境コミュニケーションを図るため、各地の保育園や幼稚園など、お子さまや保護者の方々がお集まりになる場を訪問し、環境問題への「気づき」となる環境紙芝居の読み聞かせやご家庭でできる省エネ情報をお伝えするとともに、当社の環境活動に対するご意見・ご要望をお伺いするエコ・マザー活動を展開しています。

この活動で皆さまとの「パイプ役」となっていたのが、エコ・マザーです。エコ・マザーは、自らもお子さまをお持ちのお母さま方で、各自でアイデアを出し合い、それぞれの得意分野を活かした特色ある活動を展開しています。

エコ・マザー活動は、ハイライト(P11~12)で詳しく記載しています。

テレビコマーシャル

「環境活動への取り組み」をテーマとした企業イメージCMを放映しています。

九州各地で地域の皆さまと一緒に植樹する「九州ふるさとの森づくり」にスポットを当てて制作したもので、身の回りにある自然を将来にわたって残していきたいという皆さまの思いを、当社も一緒になって叶えていきたいとの意味を込めています。



CM「森づくり篇」の一場面

一緒に地球の未来を考えてみませんか?

九州エネルギー館 スタッフ 前原 和子

VOICE

九州エネルギー館は、今年で創立25年目を迎えるエネルギーの総合展示館です。「エネカン」というニックネームで親しまれており、展示ではエネルギーの歴史や発電方法などを紹介しています。

土、日、祝日は映画会や工作教室などのイベントを行い、親子で楽しめる施設となっています。また、電化PRコーナーではIHクッキングヒーターを使った調理体験なども行っています。

近年、地球温暖化などの環境問題が深刻になっていますが、今、私たちに必要なことは、一人ひとりのちょっとした心掛けだと思います。ゴミを減らす、水や電気の無駄遣いをしない、などたったそれだけの事でも、美しい地球環境を取り戻すことに貢献できるのではないのでしょうか。

九州エネルギー館をご見学いただき、エネルギー資源の大切さや、環境問題について関心を持っていただければ幸いです。「一緒に地球の未来を考えてみませんか？」皆さまのご来館をスタッフ一同お待ちしております。



地域における活動への取り組み

「九州ふるさとの森づくり」や「環境教育支援活動」、「社会奉仕活動」などを行うとともに、「グリーンヘルパーの育成支援」や諸行事への参加など、地域における環境活動を積極的に展開・支援しています。

また、社有林の適正な維持管理を通して、森林が持つ公益的機能の維持・向上に努めています。

九州ふるさとの森づくり

創立50周年を記念して、2001年度から10年間で100万本（10万本/年間）の植樹を地域の皆さまと一緒にやって行く「九州ふるさとの森づくり」を九州の各地で展開しています。



九博の杜づくり

2006年度は、42か所で森づくりを実施し、約12万本を植樹しました。これまでの6年間の植樹本数は、約67万本となっています。

その土地本来の樹種による森づくり

水源涵養のほか、CO₂の吸収固定、生物多様性の保全、土砂災害の防止、保健休養の場の提供などの公益的機能を踏まえ、その土地本来の樹種による「ふるさとの木によるふるさとの森づくり」に取り組んでいます。

育林活動

植樹した苗木が成長するまでの育林活動として、苗木の周りの下草刈り（維持管理活動）を行っています。

森づくり担当者連絡会議

森づくり担当者の知識・技術の向上を目指し、運営方法や植樹後の維持管理に関する報告・意見交換の場として、2004年度から、「森づくり担当者連絡会議」を実施しています。



森づくり担当者連絡会議での実地研修



関連・詳細はホームページで [九州電力](#) 検索

環境への取り組み > 具体的な取り組み > [九州ふるさとの森づくり](#)

グリーンヘルパーの育成支援

1998年度から、NPO法人「緑のまちづくり交流協会」を通して、「グリーンヘルパー」の育成支援を行っています。

2006年度は、福岡、大分地区で研修を開催（受講者：119人）し、2006年度末までの九州内での受講者総数は912人となりました。受講された皆さまは、各地で緑の育成に関するボランティア活動を実施されており、当社の「九州ふるさとの森づくり」にもご協力いただいています。

また、同法人が進める市民運動「100年の森づくり（都市の中に森を再生する運動）」への協力も行っています。

2006年度の主な植樹活動実績

地区	計画名	植樹本数 (本)	参加者数 (人)	主な樹種
北九州	響灘・鳥がさえる 緑の回廊づくり	10,000	640	シイ、カシ、 クヌギ
福岡	古賀市10万本 ふるさとの森づくり	10,000	1,000	シイ、タブ、 カシ
	九博の杜づくり	10,000	1,200	シイ、タブ、 カシ
佐賀	ふるさとの森づくり in 佐賀市富士町	15,000	1,300	カシ、クヌギ、 コナラ
長崎	雲仙・普賢の森 植林ボランティア	10,000	1,200	タブ、クス
大分	九州ふるさとの森づくり (竹田市)	10,000	650	ケヤキ、コナラ、 ヤマモミジ
熊本	人吉市「草津川源流域」 の森づくり	3,000	170	ヤマザクラ、 ヤマモミジ
宮崎	綾町ふるさと照葉樹の 森づくり	21,000	1,700	シイ、タブ、 カシ
鹿児島	築こう緑の大地 ～吹上浜植林	7,000	900	マツ
その他（維持管理含む33箇所）		25,700	2,810	—
合計		121,700	11,570	—

「古賀グリーンパーク」で森づくりしてます！

福岡支店福岡営業所 営業運営グループ **梶山 智**



私は4年前から「古賀市10万本ふるさとの森づくり」を担当しています。古賀市は福岡県の北部、福岡市に隣接しており、経済・流通の要地ですが、海や山の自然にも恵まれたところです。

2001年度から開始した「古賀グリーンパーク」での植樹活動は、今回（2007年3月10日）で早や6回目を終了し、これまでに5万5千本の苗木を植えました。2010年度までの10年間で10万本を植樹する予定です。

年1回の植樹に加え、春と秋には育林活動（下草刈り）を実施していますが、ボランティアによる参加者は延べ8,000名を数えました。

2時間ほどの間ですが、老若男女さまざまな参加者は、額に汗し一心不乱に苗木を植え、草を刈り、土や植物とのふれあいを喜び満足して帰られます。

私たちは、そのひと時のお手伝いができることを本当に感謝しております。

これからもそれぞれの地域で皆さまと一緒に「九州ふるさとの森づくり」に取り組んでいきたいと思っています。



九州ふるさとの森づくりが行われていますが、植樹種の種類等を記載すると良いと思います。(環境NGO/NPO)

環境教育支援活動

市民活動や学校教育における環境教育支援の観点から、2002年度より、当社が持つ豊かな自然環境を活用した環境教育支援活動を、大分県臼田市の女子畑発電所ダム周辺にある「女子畑いこいの森」で展開しており、自然観察会のほか、植樹地の下草刈りなどの森林教室、水力発電所を見学するエネルギー教室などを、市民団体の皆さまと協力しながら実施しています。

さらに、2006年度からは、大分県由布市にある山下池周辺の社有林において、自然観察会を新設するなど、環境教育支援活動の更なる充実を図っています。

2006年度は、10団体216人を受け入れ、2006年度末までの受け入れ総数は、延べ37団体1,189人となっています。

なお、当社ホームページでは、参加受付を行うとともに、ご参加いただいた皆さまのレポートも掲載しています。

■ プログラム概要

コース	概要
自然観察	女子畑での自然観察を通して、身近にある自然への関心を高めます。
森林教室	自然林、里山、人工林などそれぞれの森の動き、違いなどの理解を深めます。
保全活動・林産業体験	山菜採りなどを通して、自然との共生に関する理解を深めるとともに、共生のための森づくり、管理を行います。
木工教室	物を作る喜びを味わうとともに、木材の利用によるCO ₂ 固定、資源循環への理解促進を図ります。
エネルギー教室	水力発電設備の見学、自然エネルギーへの理解を通して、省資源、省エネルギーに対する理解促進を図ります。



木工教室（竹トンボづくり）



女子畑いこいの森紹介パンフレット（左）とフィールドガイド（中央・右）



関連・詳細はホームページで [九州電力](#) [検索](#)

環境への取り組み > 具体的な取り組み > [女子畑いこいの森](#)

不法投棄パトロールへの協力

パトロール中などに廃棄物の不法投棄を発見した際、自治体へ情報提供を行う「廃棄物の不法投棄対策に関する協定」を、24事業所で、延べ66の地元自治体と締結し、実践しています。



社用車にもステッカーを貼り不法投棄抑止をPR

環境月間における取り組み

環境基本法に定められた6月5日の「環境の日」を中心とする6月の1か月間は、「環境月間」として全国一斉に各種環境関連行事が展開されています。

当社においても、環境保全活動の必要性・重要性を再認識する期間と位置付け、その取り組みの一環として、地域における植樹活動や清掃活動等の社会奉仕活動を積極的に実施しています。

植樹活動

13事業所で2,834本を植樹しました。

長崎支店平戸営業所では、平戸市内の平戸つつじふれあい公園で、平戸つつじ振興会の皆さまと一緒に、ヒラドツツジなど500本を植樹しました。



植樹活動（長崎支店平戸営業所）

講演会

お客さまを対象とした、環境・エネルギー関連の講演会を4事業所で実施し、あわせて855人の参加をいただきました。

福岡地区では、俳優で気象予報士の石原良純氏をお招きし、「空から学ぶ地球環境問題～気象予報士石原良純の環境学～」をテーマとした講演会を開催し、約600人の皆さまに参加をいただきました。



石原良純氏による講演会

奉仕活動

事業所周辺の道路や公園、海岸などの清掃を76事業所で実施し、地元自治体等主催の清掃活動にも32事業所が参加しました。

苓北発電所では、地元の天草漁協の皆さまと合同で、稚貝を苓北町近海へ放流しました。

また、6事業所で、構内の農園や温室の開放を行いました。



海浜清掃活動（福岡支店大牟田電力所）



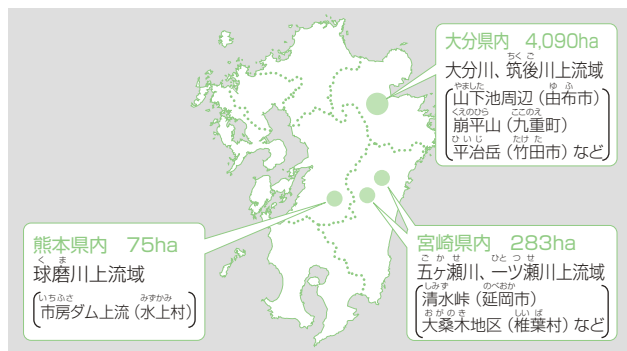
発電所構内の芋畑の開放（松浦発電所）

社有林の適切な管理

当社は水力発電の安定した水源確保を目的として、^{あそ}くじゅう国立公園区域内を中心に4,448haの社有林を維持管理しています。森林には水源かん養のほか、温暖化の原因であるCO₂の吸収固定、生物多様性の保全、土砂災害の防止、保健休養の場の提供などの公益的機能があり、環境問題への関心の高まりから、森林に対する期待が大きくなっています。

当社は今後とも社有林の適正な維持管理を通して、公益的機能の維持・向上に努めていきます。

社有林の位置



社有林の生い立ち

社有林は、今から80年以上前の大正時代に当社の前身である九州水力電気(株)が、水力発電の安定した水源確保の目的で、放牧で原野と化していた九州の尾根地帯に山林育成を開始したのが始まりです。先達が長年守り育ててきた社有林は、現在では鬱蒼としたスギ・ヒノキの美林を形成しており、地球環境保全の一端を担う森へと育てています。

社有林の管理

社有林の管理は、昭和24年に山林管理に専念するため電気事業から分離独立した九州林産(株)が、当社からの委託を受けて行っています。



近年の木材価格低迷に伴い、森林管理においても費用削減が求められていますが、森林の公益的機能維持向上の観点から、社有林を機能、目的別にゾーン分けを行い、適正な森林管理を実施しています。

ゾーン	面積 (ha)	長期方針
資源循環林	1,533	木材原料供給源として良質材の生産を目指す森林
公益的機能促進林	1,727	針葉樹・広葉樹の混交林として、生物多様性の向上に努める森林
転換林	107	人工林として生育が好ましくないため広葉樹林として機能の向上を図る森林
風致林	267	山下池周辺など、景観保全・保健休養を重視した森林
保全林	814	保全すべき平治岳などの天然広葉樹林
計	4,448	-

社有林に対する社会からの評価

レクリエーションの場として整備してきた「山下の池周辺の森」が、1995年に林野庁の「水を仲立ちとして森林と人との理想的な関係がつけられている等の代表的な森を選定する『水源の森百選』」に選ばれました。

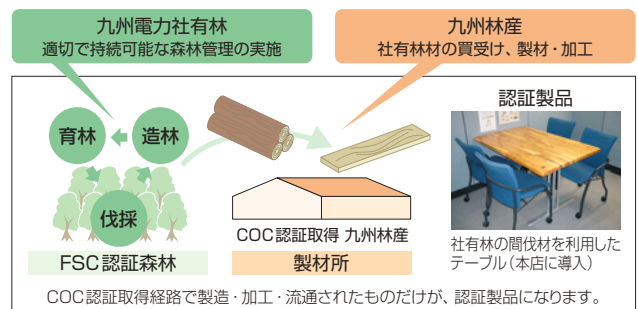
また、2005年3月には適切な森林管理が行われていることを認証するFSC(森林管理協議会)の「森林管理認証」を国内の電力会社では初めて(国内の森林では20件目、九州では2件目)取得しました。森林管理について定期的に外部審査を受けることで「環境活動の信頼性向上」、「社有林の多様な機能や効果の継続的な維持向上」、「地域社会との共生」に寄与するものと考えています。



認証登録証

あわせて、九州林産(株)では、社有林から産出された木材(認証材)の加工流通を認証する「COC(生産物)認証」を取得しています。

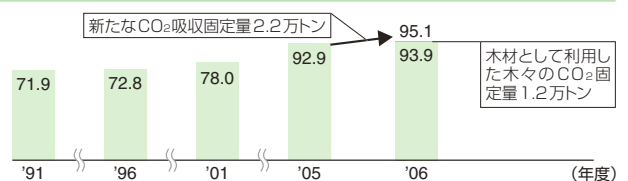
FSC認証の流れ



社有林によるCO₂吸収

社有林4,448haにより、2006年度は2.2万トンのCO₂を新たに吸収固定しました。木材として利用するために伐採した木々が固定していたCO₂量1.2万トンを差し引いても、社有林全体では93.9万トンのCO₂を固定しています。

■ 社有林によるCO₂吸収固定量推移



(注1) 森林調査に基づく実測値から日本国温室効果ガスインベントリ算定方法に基づき算定(2006年8月の算定方法見直しに伴い、社有林のCO₂吸収固定量についても見直しを実施)。

(注2) '01年度までのCO₂吸収固定量には樹齢15年以下の若木分は含まない('05年度からGIS利用による管理を行い精度向上)。

その他の森林

社有林のほか、発電所等の周辺緑地約250haについても周辺環境との調和を目指した適正な管理に努めています。

国際協力

JICA等の機関を通じた専門家の派遣、研修生の受け入れや、海外の電気事業者との情報交換、IPP事業を中心とした海外事業、コンサルティング事業を展開しています。海外IPP事業では、天然ガスを燃料とした高効率の火力発電所を建設し、CO₂排出を抑制するなど、環境に配慮しています。

また、環境保全関連では、従来からCO₂削減に資する技術の移転や諸研究に取り組んでおり、2007年4月には、中国大唐集团公司及び住友商事株式会社と再生可能エネルギーの開発に関する協力枠組協定を締結しています。

さらに、豪州、中国、インド、日本、韓国、米国の6か国が参加する「クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ (APP)」での取り組みとして、2007年4月に電気事業連合会が経済産業省と共催した「第1回 経年石炭火力発電所の熱効率維持・向上に向けたピアレビュー (APP-石炭火力ピアレビュー)」では、3名の社員を講師として派遣し、海外から参加した37名の参加者と熱効率低下に影響する保守の要因等について意見交換を行いました。

■ 現在取り組んでいる海外IPP事業

プロジェクト名 [国 名]	発電方式 [燃料]	出力 (万kW)	営業運転開始
トックスパン2号IPP [メキシコ]	ガス・コンバインドサイクル方式 (天然ガス)	49.5	2001年 12月
イリハンIPP [フィリピン]		120.0	2002年 6月
フーミー3号IPP [ベトナム]		71.7	2004年 3月
トックスパン5号IPP [メキシコ]		49.5	2006年 9月

■ 主要コンサルティング実績 (2006年度)

国 名	件 名
中 国	中国における工場の省エネルギー化推進システム導入実証事業
台 湾	台湾電力大甲溪流域斜面崩壊および土石流調査
	台湾電力大甲・埔里・公学変電所建設コンサルティング
	台湾電力深澳発電所建設コンサルティング

1%の効率改善でCO₂を1億2千万トンも削減!

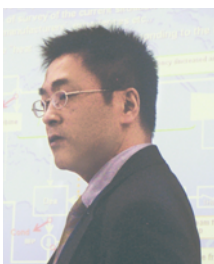
丸田 隆
唐津発電所 技術課

2007年4月16日～19日にかけて電源開発(株)高砂火力発電所他で開催されたAPP-石炭火力ピアレビューに参加しました。

このピアレビューは、APP参加国の発電技術者が石炭火力発電所を相互に訪問し、熱効率改善手法を共有することを目的としています。

私は講義の中で、松浦発電所でのタービン効率の改善事例の紹介を通して、既存発電所の熱効率維持・向上のためには日々の適正な運転管理がいかに重要であるかをお話しました。

参加者が今回学んだことを自国・自社の発電所で実践することにより、発電所の熱効率が維持・向上し、結果としてCO₂の排出抑制



に繋がります。仮に、熱効率向上または将来にわたる熱効率低下の回避の効果を1%と想定して試算した場合、APP参加国全体で、1億2千万トンものCO₂を削減できることとなります。

今後も機会があれば、このAPP-石炭火力ピアレビュー活動を通して、九州電力の熱効率改善手法他を参加国の発電技術者に紹介していきたいと思ひます。

VOICE

社員の意識高揚

環境に関する研修や、社内外講師による環境講演会などを積極的に実施し、社員一人ひとりの意識高揚を図っています。

■ 研修・講演会

事業所の環境業務の管理職・担当者及び新入社員を対象に、コンプライアンスやEMSの運用に必要な知識の習得など環境業務全般に係る研修を10回実施し、463人の社員が参加しました。

また、環境に関する社外の研修・講習会に、41事業所で409人の社員が参加しました。

環境月間では、社内外講師による社員向け講演会を12事業所で実施し、628人の社員が聴講しました。本店では、ノンフィクション作家の山根一真氏をお招きして、「『環業革命』～日本発の新エネルギー時代へ～」をテーマに講演会を開催し、150人の社員が聴講しました。



山根氏による講演会

■ 環境関連の専門家育成

通信教育受講料の補助や公的資格祝金などの諸制度を設けて、エネルギー管理士や公害防止管理者など、社員の環境関連の資格取得を支援しています。

■ 資格取得者数 (2006年度末現在)

単位:人

資格名	取得者
エネルギー管理士 (旧制度取得者を含む)	958
公害防止管理者 (公害防止主任管理者を含む)	531
廃棄物処理施設技術管理者	203
特別管理産業廃棄物管理責任者	279
内部環境監査員	728

■ 社員の社会貢献活動支援

社員が積極的に地域社会への貢献活動を推進する気運を喚起し、地域社会への貢献に側面的に寄与することを目的として、「地域社会貢献者表彰制度」を設けるとともに、「ボランティア休暇制度」を整備しています。

■ ボランティア休暇の取得実績 (2006年度)

	社会福祉活動	地域一般活動	地域スポーツ・文化活動	ドナー (骨髄バンク)	合計
人数 (人)	85	30	50	3	168
日数 (日)	124.0	46.5	73.5	2.0	246.0

■ 情報提供

社員向け情報誌「環境ダイジェスト」(毎月発行)や社内イントラネット・新聞・テレビ等を活用し、環境に関する情報を積極的に発信しています。